

大学連携で街の活性化目指す

北九州の大学 特色生かす取り組み

北九州の大学は各校とも特色が豊かです。西原 歯科医師会とも話をしたのだが、重篤な疾患を持つ高齢者の治療には怖さがつきまとう。ましてや訪問介護の現場では治療中の急変に対処できず、歯科医師は救急搬送という最悪のケースを考えてしまう。DEMCOPは30〜50代の開業医にリカレント教育（生涯学習）を施すことで、食嚥下障害など高齢者の難しい歯科治療に対処する。ほかにはアジアでの感染症に関する啓発活動も進めている。アジアは今エイスウィルス（EIV）や結核などの治療が優先されているが、やがては途上国も先進国のように病気をコントロールするようになる。そう



九州工業大学 尾家学長

なれば自身の健康の観点から口腔ケアも必要になる。一助になるだろう。私は友人とともにミヤマーで教育を行っているが、17年には非政府組織（NGO）を立ち上げる。今後は、近藤 COCもミヤマーの口腔保健に力を入れていく。DEMCOPを始めたのは大学の取り組みが北九州モデルとして



産学官連携の協力関係構築 街に出て地元定着につなぐ

尾家氏 近藤氏

業して地元を離れた学生を就職時にまた呼び戻す、そのために高校時代の同級生のネットワークを生かして地元就職を促すといった取り組みなどが挙げられる。大学の70年の歩みを振り返ると、これまでは予想以上に高い評価を市内外からいただけてきた。次の100年に向けて策定した新たなビジョンの下でさらなる高みを目指したい。

尾家 本学と北九州市は産学官連携で特徴的な活動ができています。かつては大学の活動に企業が入ってくることは難しかったが、今は変わった。本市ならではの産学官連携を構築するために、今後さらなる協力関係を構築したい。文部科学省の地域イノベーション・エコシステム形成プログラムは市と共同で提案したが、選ばれたのは全国でも4件と大変な栄誉だ。これも連携の成果が評価されたのだろう。工業系大学や工学部は全国にあるが、この街ならではの連携活動をこれからも進めたい。知財や、大学内への企業の研究部門誘致などできることはまだある。進化していく。

いと考えているが、1割は伝える取り組みをさらに進め、企業と学生のマッチングを促すことも考えたい。産学官連携を通じて先進的な取り組みを理解させれば、就職先の候補になる。一街のにぎわいは大事で、最後に北橋市長に今後の課題や北九州市の将来展望などをお話しいただきたい。

誇り持てる街づくり目指す 北橋氏

口腔ケア 国際貢献の一助に 西原氏

街のにぎわいづくりには企業に加えて大学の存在が大変重要になります。北橋 若者が魅力を感じる雇用の場をつくるのが大事だ。本市は住みやすく物価も安い、雇用の場がまだまだ少ない。新成長戦略ではその点にも目配りしている。

西原 本学の学生はほぼ7割が福岡県外からやってくる。開業は北九州市の周辺市町村も多いが、市外に出ている卒業生もいる中で、6年間の教育で自分が地域でどのような貢献ができるのかをイメージさせている。

近藤 本学の8割は市外からの入学で、卒業後に地元に残るのは2割。実は卒業生の3割は地元に残り、都市の将来、子育て支援も重要

都市の将来、子育て支援も重要



九州歯科大学 西原学長